

第4回放射能の農畜水産物等への影響についての研究報告会
—東日本大震災に関する救援・復興に係る農学生命科学研究科の取組み—

市民のリスク知覚と放射性物質

2012年9月8日

東京大学大学院農学生命科学研究科

中嶋康博・細野ひろみ

食品のリスクをめぐる市民の考えを インターネット調査で把握

- 食品中の放射性物質に対するリスク知覚を他のハザード※と比較
- 食品由来のリスクを回避できるかどうかの意識(安心)を“守られ感”という観点から検討

※ハザード(Hazard): 健康に悪影響をもたらす原因となる可能性のある食品中の物質または食品の状態。危害要因ともいう

調査の概要

調査方法

- ・ インターネット調査

実施時期

- ・ 2012年3月12日～15日

回答者

- ・ 20～69才の全国の男女8,238名

調査項目

- ・13種類のハザードに対するリスク認知、確率や重篤度はどのように捉えられているのか？
- ・食品とハザードの関連付け
- ・食品選択時の意識・行動に関する質問

食品のリスク知覚

リスクに対する心理 — 不安を左右する要因 —

- 自発
- 制御可能
- 利益
- 公平
- 人為
- 経験
- 将来

質問

- 食品中の以下のハザードによるリスクは、あなたにとってどの程度高いと感じていますか？
- 食品中の以下のハザードについて、あなたはどのように思いますか？

市民のリスク知覚(1)

リスクが高い

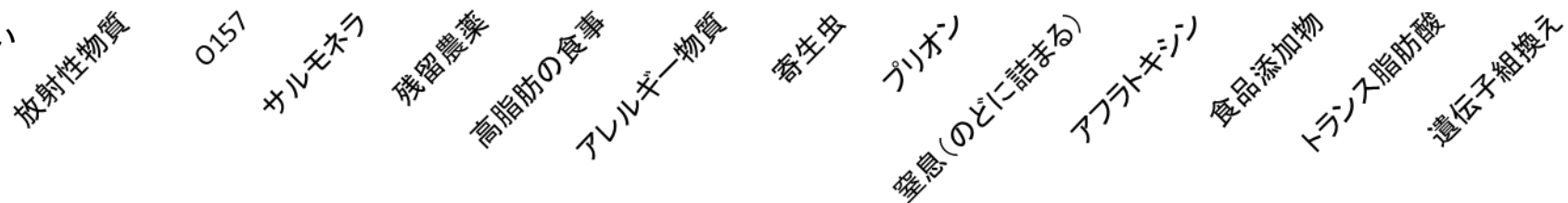


7.0
6.5
6.0
5.5
5.0
4.5
4.0
3.5
3.0
2.5
2.0
1.5
1.0

リスクが低い

■ 男性

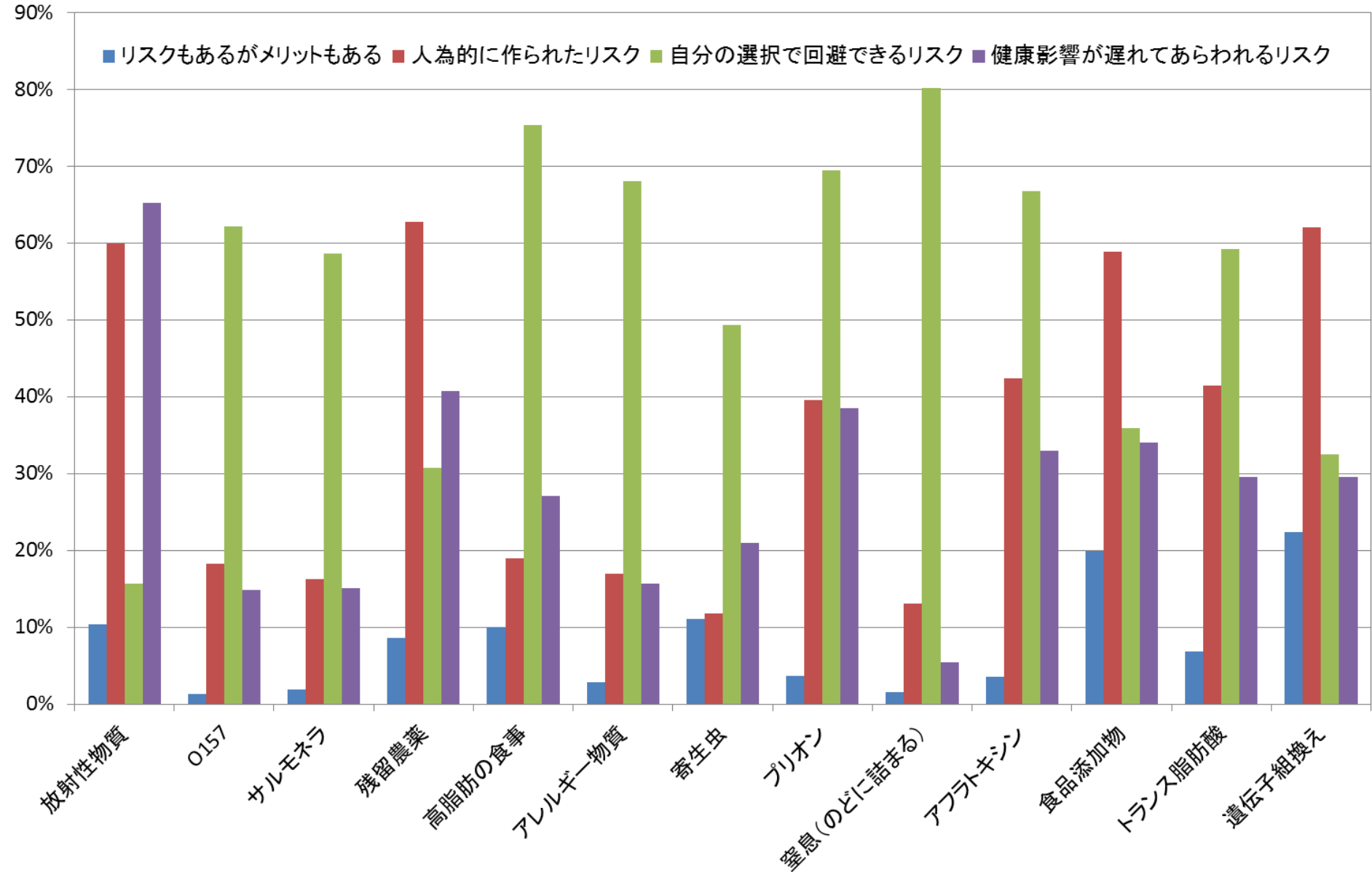
■ 女性



リスクはない:1点、リスクはとても低い:2点、リスクは低い:3点、どちらかというリスクは低い:4点、どちらかというリスクは高い:5点、リスクは高い:6点、リスクはとても高い:7点

➡ 加重して平均点

市民のリスク知覚(2)



「そう思う」という人の回答率

食品リスクを回避できるか？

“守られ感”の把握

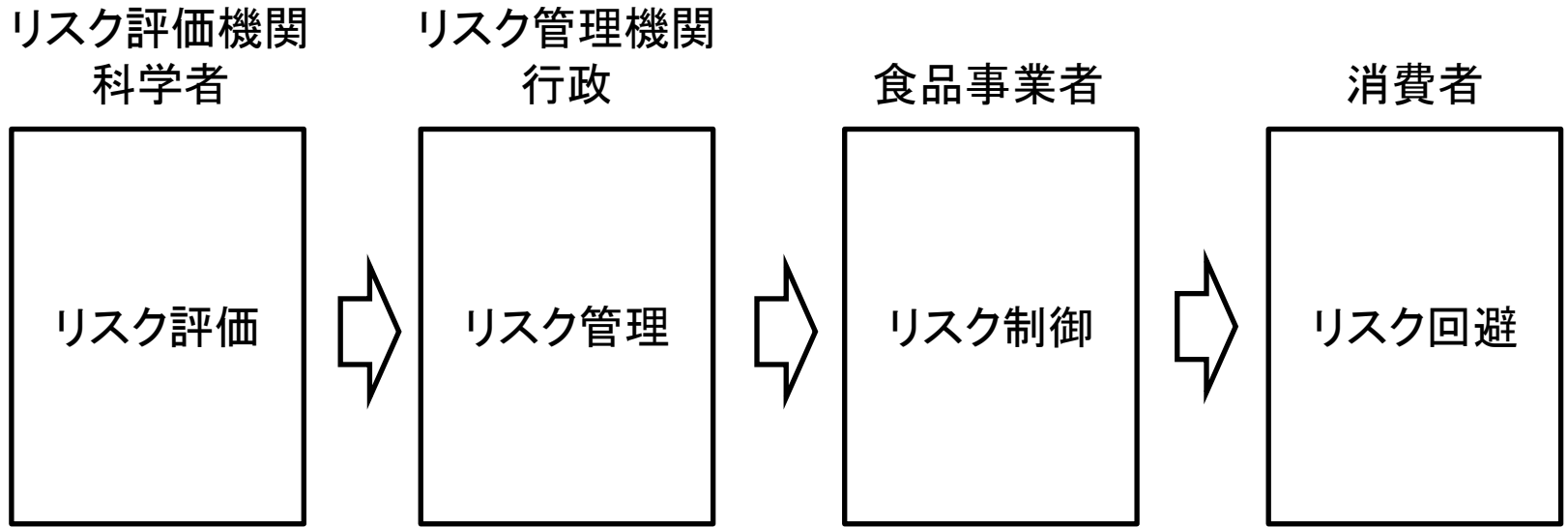
質問

- あなたは、以下のハザードによるリスクを、**自分の**行動で回避できると思いますか？
- あなたは、**食品メーカー**によって以下のハザードによるリスクから守られていると思いますか？
- あなたは、スーパーなど**小売店**によって以下のハザードによるリスクから守られていると思いますか？
- あなたは、以下のハザードによって、健康を害することがないように、**政府**は食品メーカーや飲食店をきちんと監視・指導できていると思いますか？
- あなたは、以下のハザードによるリスクの**発生メカニズム**が十分に**説明**されていると思いますか？

食の安全を実現するための役割分担

	リスク評価	リスク管理	リスク制御・回避
科学・科学者	○		
行政機関	○	○	○
食品事業者		○	○
消費者			○

フードチェーンとリスク



消費者の意識としては、対象とする食品を食べてよいかどうか単純に知りたいだけであって、分析的な議論は避けたがり、直截的結論だけを求めている。

リスク知覚
↓
安全性への
確信
(安心)

安全性を実現するためには、それぞれの立場での適切な行動の積み重ねが重要

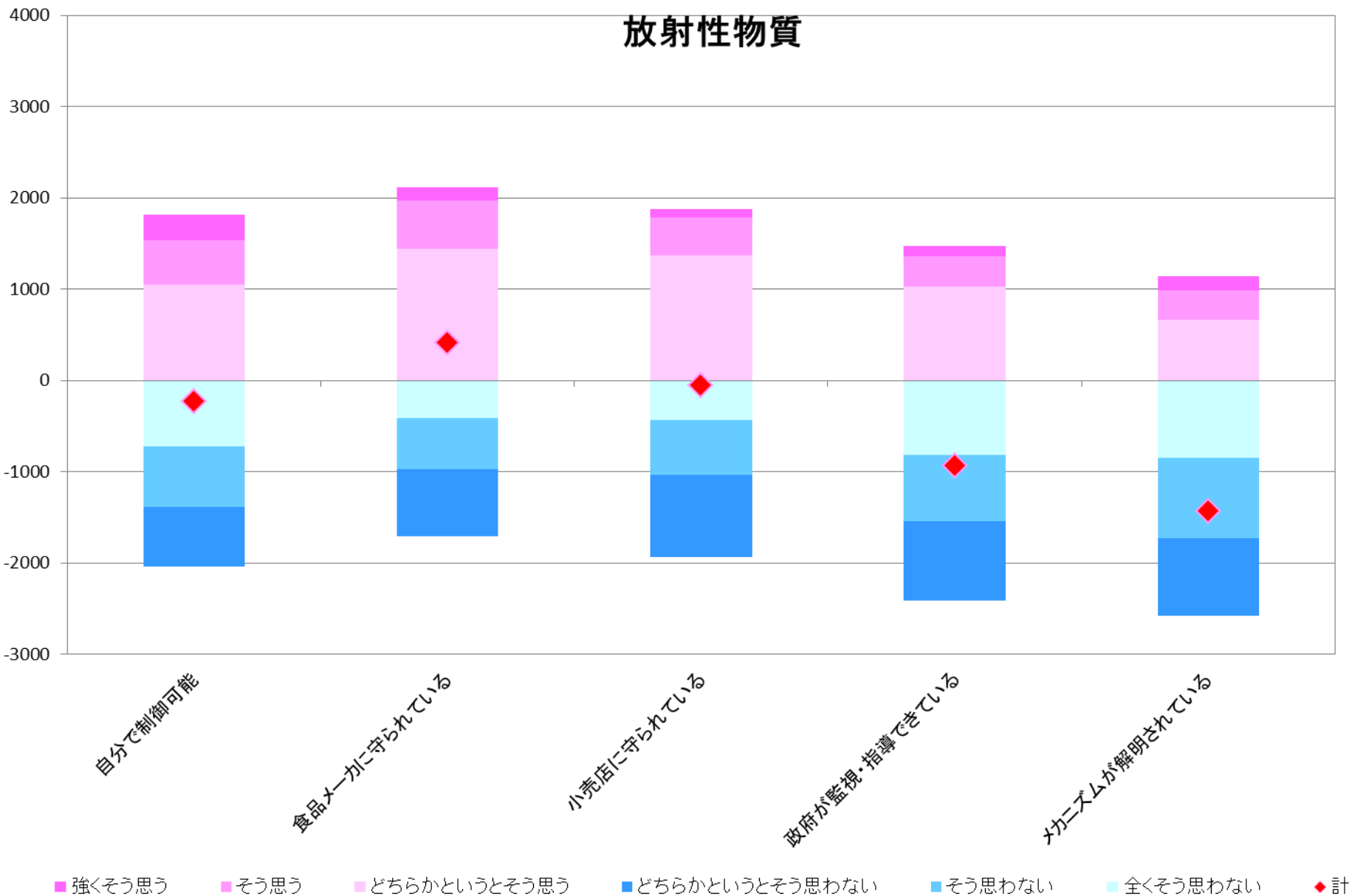
食の安全・安心・信頼



リスク低減の可能性についての意識

(回答者数) ※アンケートの様式の関係から対象者は約4000名

放射性物質



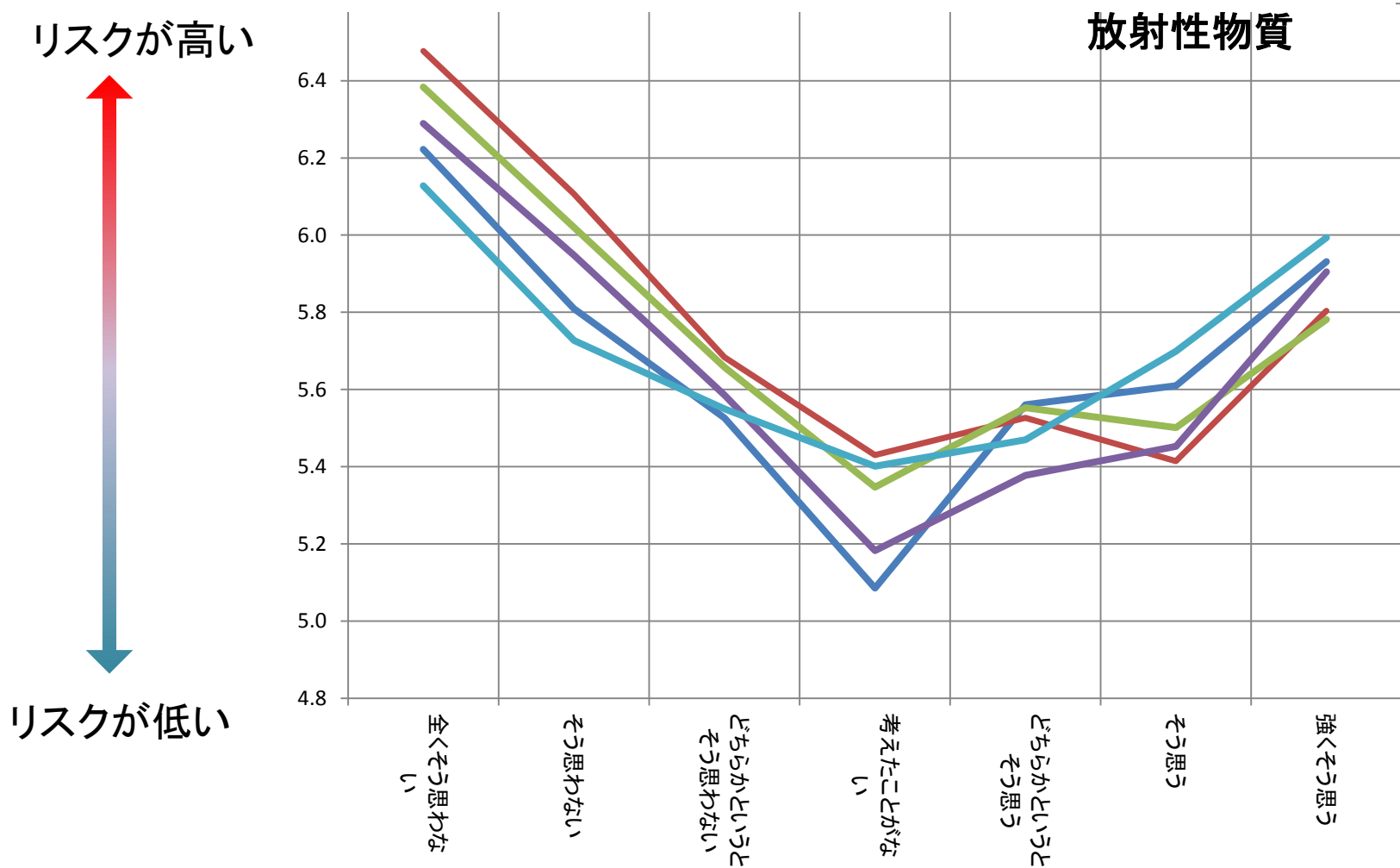
“守られ感”の弱いところを中心に
コミュニケーションを行うべきではないか



ただし、次の結果にも留意すべき

制御可能性とリスク知覚

- 自分で制御可能
- 食品メーカーに守られている
- 小売店に守られている
- 政府が監視・指導できている
- メカニズムが解明されている



“信頼と安心のパラドックス”

- リスク感は相対的なもの
- 参照点(期待感)の上方推移
- リテラシーの向上がもたらす不安感の存在
- “できる”ことと“できている”こととは別問題



どのようにコミュニケーションしていくべきかについて、さらなる研究・検討が必要

コミュニケーションによる相互理解

